

## 今日のキーワード 『仮想通貨』を理解するシリーズ1

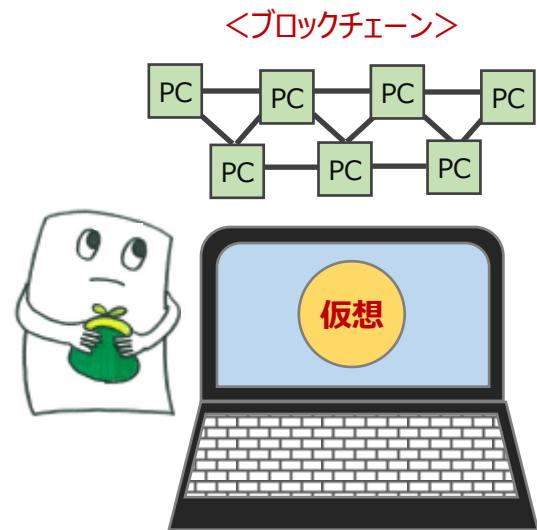
このところ『仮想通貨』がマスコミを賑わせています。ビットコインは昨年末にかけて価格が高騰し、巨額の富を得た人が多数現れたようです。一方、交換会社のコインチェックからは、多額の金額に相当する『仮想通貨』が盗まれました。きっと、皆さんのご関心も高いと思います。そこで、『仮想通貨』とは何か、役割や価格の決め方、その種類や特徴、何が問題なのか、今後はどうなっていくのか等についてシリーズで解説します。

### ポイント1 『仮想通貨』とは何か 世界に1,500種類もあるデジタルなおカネ

- 『仮想通貨』は、紙幣やコインといった目に見える形での物理的な通貨ではなく、コンピュータ上でやり取りされるデジタルなお金の一つです。現在、世界で1,500種類あると言われており、日本では30種類程度の『仮想通貨』が取引されている模様です。

### ポイント2 『仮想通貨』は皆で運営 通貨と異なり中央銀行は不在

- 円やドルなどの通常の通貨は、日銀や米連邦準備制度理事会（FRB）といった中央銀行などの公的な主体が発行していて、この主体が責任を持って管理・運営しています。通貨の価値は、発行国の経済や財政状況、政策運営の信頼感等を背景にした通貨への「信用」によって決まっています。
- 一方、『仮想通貨』には中央銀行のような責任を持った管理主体はなく、政府や中央銀行は『仮想通貨』の価値を保証しません。例えば、最も大規模に取引されているビットコインは「ブロックチェーン」と呼ばれる技術を使い、世界中のビットコインネットワークの参加者が協力して取引処理を行い、管理しています。



### 今後の展開 『仮想通貨』を支える「ブロックチェーン」、広がる活用

- 「ブロックチェーン」は、複数のコンピュータで取引データを共有し、分散管理する仕組みです。取引記録を鎖（チェーン）のようにつないで記録するため、この名前が付けました。分散型システムのため、障害に強く、データ改ざんにも極めて強いという特徴があります。
- 「ブロックチェーン」は「分散型台帳技術」とも呼ばれています。この技術は国際的な送金や証券決済（株式などの売買）への活用が考えられ、各国で実証実験が始まっています。将来的には、『仮想通貨』の技術を応用した先進的な金融システムの構築が進み、我々の生活がより便利になることも期待できそうです。

ここもチェック！ 2018年2月26日 東京五輪での活躍も期待される『AI』  
2018年2月22日 アジアの『eコマース』市場は急拡大

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。